

# 第7回伊達市総合教育会議 会 議 録

## 1 日 時

開 会 平成31年2月21日(木) 16時00分  
閉 会 平成31年2月21日(木) 16時40分

## 2 場 所

市役所 2階会議室A・B

## 3 出席者氏名

伊達市長	菊 谷 秀 吉
伊達市教育委員会教育長	影 山 吉 則
委 員	早 瀬 芳 宏
委 員	菊 地 裕 子
委 員	平 田 賢 弘
委 員	岩 本 秀 一

## 4 欠席した教育委員の氏名

なし

## 5 会議に出席した職員の職氏名

市長部局	
企画財政部長	大 矢 悟
企画課長	高 田 真 次
企画調整係長	今 野 卓 也
教育委員会	
教育部長	金 子 達 也
教育部参与	櫻 井 貴 志
学校教育課長	安 藤 隆
生涯学習課長	山 根 一 志
図書館長	竹 迫 知 美
食育センター参事	代 田 顕 靖
指導室参事	永 井 修
指導室主査	吉 田 寛 和
学校教育課企画総務係長	上 山 昭 二

## 開 会 （16時00分）

### ◎高田企画課長

本日は、お忙しいところお集りいただき誠にありがとうございます。ただいまから、第7回伊達市総合教育会議を始めさせていただきます。本会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第1項に基づき協議するものです。それでは、これより先の進行は菊谷市長よりお願いします。

### ◎菊谷市長

それでは、さっそく議事を進めさせていただきます。

本日の会議に付す事件は、協議第1号から報告第2号までの3案件につきまして、皆さまからさまざまなご意見を賜りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、協議第1号「伊達市教育大綱の策定について」、学校教育課長より説明いたします。

### ◎安藤学校教育課長

それでは、協議第1号「伊達市教育大綱の策定について」ご説明いたします。

大綱につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3第1項の規定によりまして、「地方公共団体の長は、教育基本法第17条第1項に規定する基本的な方針を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるもの」となっております。

また、大綱を定め、又はこれを変更するときは、同法第1条の3第2項の規定により、あらかじめ、総合教育会議において協議する必要があるとなっております。

さらに、地方公共団体において「教育振興基本計画」を定めている場合は、その中の目標や施策の根本となる方針の部分を大綱に位置付けることもできるとされており、地方公共団体の長が、総合教育会議において教育委員会と協議・調整し、当該計画をもって大綱に代えることと判断した場合には、別途大綱を策定する必要はないとされております。

よって、これまでの伊達市の教育大綱として、3つの柱にまとめました目標につきましては、今年度末を持って終了となりますことから、本年4月から新たにスタートします「第2次伊達市教育振興基本計画」の概要版を、伊達市の教育大綱として位置付けたいと考えております。具体的な内容については、既に協議済みでありますので説明は省略させていただきます。大綱の計画期間につきましては、当該計画期間であります、2019年度から2028年度までの10年間と考えております。説明は以上となります。

### ◎菊谷市長

ただいま説明がありましたが、ご質問、ご意見はございませんか。

### ◎早瀬委員

この計画に記載されておりますが、人間力を育てていくことはとても難しいと思います。全ての子供たちの学力や体力が上がることは当然ですが、スペシャリストのような人材がこれからの時代に求められています。

### ◎菊谷市長

学校教育では機会を提供していくことで、子どもたちがいろいろな機会を経験し、自分がしたいことに目覚めていく、そのようなことが重要だと思います。

### ◎岩本委員

歴史文化を活かしたまちづくりの推進では、だて歴史文化ミュージアムが完成しますの

で活用していくことが重要です。今後、人口減少が著しいので、これからは郷土愛「だて学」を通じて地元と歴史に興味を持っていただき、将来的に帰ってきてもらえるように、今から10年後、20年後を見据えてまちづくりをしていかなければならないと考えます。

#### ◎平田委員

若い人が帰ってきて、まちづくりに参加される方がおります。そのような人々がたくさん参加していただけるような取組が必要だと考えます。

#### ◎菊谷市長

3月には市内中学生に対して講演があります。市長になって2年目くらいの時に、当時の伊達中学校生徒が、将来どこに住みたいかと聞かれたら8割の生徒が札幌、2割が東京、伊達に住みたいと思っている生徒はおりませんでした。その後、中学校卒業式の間際にアンケートを実施していただき、年々、地元に残りたいと思っている生徒が増えております。ある大学教授にこの話をしたら、他の自治体の首長からも同じことを伺ったと話していました。その教授曰くは、日本全体がそのような傾向にあると話しておりました。3月に実施する講演では、ケンタッキーフライドチキンのことを話題に挙げようと考えております。ケンタッキーフライドチキンを道内で食べると、その原産地がすべて伊達市だということを知らない生徒が多くおります。そのような話をするのは、その会社が地元から採用しようとする、会社自体を知らない生徒が多くなかなか採用につながらないとのことでした。今後、市内にどのような企業があるのかを知らせていくことが重要だと思います。「だて学」を含め地元のことを知って、伊達から出て行って、伊達に帰ってきたら再認識できると思いますので、今後、試してみようと考えております。

#### ◎菊地委員

鮭で例えるならば、3年後に帰ってくる時に育った環境を鮭は覚えているように、人間においても、故郷の良さ、安心感、人間関係等を覚えていることが大事だと思います。若いころはまわりの環境がわからないので、ある程度の年齢になって一度、外に出た時に改めて自分の育ったところを思い起こすことができると思います。若い時に東京でも、大阪でも行くべきだと思います。客観的に振り返り、自分の生まれ育ったまちに帰りたいたいという思いを持つようになると思います。

#### ◎影山教育長

第2次教育振興基本計画が第1次教育振興基本計画と大きく異なるところは、基本理念を「自立、協働、創造」を本市の教育基本理念として生涯学習を含めた諸施策に展開していきたいと思っております。なかでも、「だて学」については、学校教育、社会教育に広がりますが、総合計画作成時に若い人たちが集まって議論し、昨年は伊達高校や伊達緑丘高校の生徒によるワークショップの取組を通して、総合計画の中で「だて人」という記載が出てきました。それを本市の教育の位置づけをしていかなければならない。そのようなところが「だて学」の最初の起点でありました。「だて学」の教育内容は歴史、伝統文化、産業、財政、自治を含めて広く検討し、子どもたちがいろいろな取組を自分事として捉えていくような教育活動を結び付けていくことが、さらに、まちを発展させていくことに繋がっていくと思っております。

#### ◎菊谷市長

新聞記事で無気力社員 24%という記事があり、日本の実情を出していると思えました。私が30代の頃、よく言われていたのは、企業に対する忠誠心という言葉がよく言われていました。それが日本はだんだん駄目になってきており、個人主義になってきているという

のは 30 年前の議論でした。無気力社員 24%の中身は、日本の熱意があふれる人は調査した 139 か国中 132 位ということが実態です。

他に気になったこととしては、北海道は少年の自殺率が全国のトップクラスであります。そのトップクラスに置かれている現状としては、社会的問題として離婚等があります。教育の役割はとても重要であり、子どもたちに夢がないのが原因だと思います。そのため、学校教育でいろいろな機会を提供し、その中で自分がしてみたいことを見つけていくことが重要だと思います。

#### ◎早瀬委員

我々の業界では、現在、問屋もメーカーも人が全然集まらない状況です。入社してもすぐに辞めてしまいます。私たちが子どものころは、世のため人のためになりなさいと言われて、誰かの役に立って対価をいただくというのが仕事の基本だと思っております。今の風潮では 8 時間労働、最低賃金、有給が何日ということを中心に仕事を捉えている風潮がある気がします。ですから、条件ばかりを気にしてすぐに辞めてしまうという風潮が我々の業界にあります。

#### ◎菊谷市長

すべての分野でそのとおりだと思います。岩本委員はどうですか。

#### ◎岩本委員

研修医の人からも最初に条件から聞かれることが多く、何がしたいということではなく、目的より条件が先になってしまっております。道徳や価値観の問題ですから、小さい時の教育の役割かもしれないと思います。

#### ◎平田委員

学生の時に読んだ本には、人間は読書をしないと関心を持たないし私見も広がらないと書いてありました。今の子どもたちが本を読んでいるかわからないですが、本を読むことで世界観が広がり、興味を持ったことに自分がチャレンジしていくのだと思います。学力低下も本を読むことが少なくなったことが原因でないかと思います。

#### ◎菊地委員

伊達市でもブックスタート事業を行っております。その事業に参加しない方は、どういふ本を与えたらよいか、読んで聞かせたらよいか、何をしたら良いかわからないということがありました。活字というのは活かされるものだと思います。

#### ◎影山教育長

私が教員になったときの学校は荒れておりました。非行がひどく、私が赴任した最初の学校も前年に生徒がシンナーで 2 人死亡し、全校生徒の 2 割も補導されておりました。そのような状況は、周辺の学校でも同様に見られた状況でした。その時代の子どもたちと比べると、今の子どもたちは落ち着いてきた反面、生きる力、活力がないと感じております。

本日、市長から出していただいた資料を見て、まさに日本の若者が自分の将来を展望できない状況になっていると思えました。そのようなことから、展望していくようなトレーニングもしていけないと思えますし、本話を聞いて思い出したのは、昔、学校図書館でよく読まされていた偉人伝という本があり、歴史上人物が困難を乗り越えていく本を読まされていたと思えました。その時に、大人はこのようにできるということ学んだと思えます。これからの 10 年後は今の職業の 70%が AI に置き換えられることから、親の職業に就くこともできない時代が到来するため、教育の果たす役割が非常に大きくなると思えます。

◎菊谷市長

市長になって2～3年目のときに、当時の達南中学校の生徒が朝読書を行っており、その読書感想文を読んだことがあります。非常に驚かされたのが、とてもレベルが高かったことです。読書をすることで文章の技術も訓練されるとともに、生きていく上でいろいろな困難にも立ち向かっていくことができるようになると思います。そのため、読書は非常に重要だと思います。学校教育の場でもそのような機会を設けていただければと思います。

それでは、協議第1号につきましては、第2次伊達市教育振興基本計画の概要版を伊達市の教育大綱として位置づけることとしてよろしいでしょうか。

[異議なし]

◎菊谷市長

続きまして、報告第1号及び報告第2号について一括して指導室参事より説明いたします。

◎永井指導室参事

報告第1号「平成30年度伊達市学力テストの結果について」でございます。資料につきましては、各教科の正答率を示したグラフをご覧ください。

昨年12月に実施した伊達市学力テストについて結果が届きましたので、概要を報告させていただきます。

結果全体としては、本テストを実施した全国の実施校の平均正答率と比較した場合、小学校については国語科で平均程度、算数科と理科については、平均を下回る結果となっております。

一方、中学校については、ほぼ全国平均を上回る結果となりました。

本調査が設定する目標値に対しては概ね同程度という結果となっておりますが、小学校算数科においては課題が見られます。

各校には詳細なデータが届いており、そのデータを活用して授業改善を行うこととしております。学力テストに関する報告は以上です。

報告第2号「平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」についてでございます。

今年度実施した全国体力・運動能力、運動習慣等調査について結果が届きましたので、概要を報告させていただきます。

本調査は、学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てることを目的とし、毎年小学5年生と中学2年生を対象に実施されております。

今年度は、体力合計点においては、小学校は5年男子が全国平均を上回り、女子が全国平均程度、一方中学校は男女とも全国平均を下回る結果となりました。

項目別では、敏捷性、持久力、走力に係る項目で課題が見られました。また、体重については、北海道平均を下回るものの、全国平均を超えている傾向が見られます。

各校には詳細なデータが届いており、そのデータを基に授業改善を含めた体力向上の取組を行うこととしております。報告は以上です。

◎菊谷市長

ただいま説明がありました、報告第1号及び報告第2号について、ご意見やご質問等はありませんか。

◎影山教育長

学力を支えるのは体力ですから、体力が落ちているのは対策を立てなければならないと考えております。

◎平田委員

子どもが外で遊ぶことが減っております。私の子どもはサッカーをしています、それ以外で、外で遊ぶことはほとんどない状況です。友達が家に集まってもゲームをすることが多いようです。もう少し体を動かしてくれれば良いと思いますので、学校教育の中で体力をつけることが出来ればと思います。

◎菊谷市長

テレビ番組で100m走の選手が速く走れる要因を聞かれ、子どもの時に外で遊んでいたことだと答えておりました。これからの子どもにとって、先生や保護者にも負担をかけないで子どもたちを遊ばせる取組が必要だと思います。

◎菊地委員

木登りしたり川を飛び越えたり、外で遊ぶことは大事だと思います。

◎菊谷市長

何か、遊べる場所をつくらないと難しいと考えます。

◎早瀬委員

昔は、土手等で遊べましたが、今は危険だから立ち入り禁止になったりしており、遊ぶ場所が制限されております。また、今の子どもたちは忙しいこともあると思います。

◎岩本委員

体力の結果を見ると走力が弱い結果が出ております。マラソン大会は先生たちの時間がとれなくてできなくなっております。また、運動会も徐々にメニューを減らしてきております。以前は、勉強で目立たない子どもがマラソン大会で活躍する機会があったと思いますが、今はなくなってきております。課外活動等でそのような場ができればよいと思います。

◎菊谷市長

幼保から小学校3年生くらいまでで、遊ぶことをしないといけないと思いますが、櫻井参与はどのように考えておりますか。

◎櫻井参与

小学校の子どもたちにアンケートを取ると体育の授業が楽しくないと答える児童が多く見受けられます。北海道や国に比べると多い状況になっております。体育が楽しくないということは、体を動かす経験が少ないことに繋がっていると思いますので、対策を考えていかなければならないと思います。

◎菊谷市長

給食の準備をするのに時間がかかり、昼休みに遊ぶ時間がほとんどなくなっていると聞きましたが、現状はいかがですか。

◎櫻井参与

今の子どもたちは、ご飯を装えないことが原因です。そのため、準備するのに時間がかかってしまいます。

◎岩本委員

自分たちが子どものときは、給食の時間に話をしないで食べることが一般的でしたが、現在の子供たちは、友達と話しながらかき飯を食べることを教育方針としているので、その違いに驚かされたことがありました。

◎菊谷市長

それでは、今後に向けた課題解決を検討していただくこととして、報告第1号及び報告第2号につきましては、報告として取扱いしたいと思います。他にご意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎菊谷市長

以上で、本日の日程はすべて終了いたします。

◎高田企画課長

これをもちまして、第7回伊達市総合教育会議を閉会いたします。

閉 会 （16時40分）